

1 日 時 令和6年1月22日（月）午後6時から6時50分まで

2 場 所 県庁本庁舎1階多目的ホール

3 出席委員（9名中8名出席）

新井委員、猪狩委員、今関委員、大木委員、影山委員、佐藤委員、西牟田委員、馳委員  
（五十音順）

4 議事概要

（1） 部会長の選出

部会員の互選により、西牟田委員が部会長に選出された。

（2） 千葉県の HIV の現状と対策

資料1により事務局から説明

質疑

猪狩委員：

- ・ エイズを発症してくる患者が多い。検査体制が足りてない。
- ・ 休日街頭検査の結果も出ていたが、なかなか回復しない原因は。

事務局：

- ・ 地域的なものもあるのではないかと。
- ・ 1回目の休日検査では定員110名に対して検査数109名で1名はお断りした。早期に整理券配布は終了したことから、それなりに周知もできていたと思われる。
- ・ 君津に関しては、開催時期的にも、世界エイズデーと重なっており、様々な自治体が検査を行っており、受験者の取り合いになったのも要因になると考えられる。正確に結果については評価できていない。

猪狩委員：

- ・ 過去では、200名を超える検査を実施しており、そこで3名ほど陽性者が出てきていた。100名超えないと陽性出てこない。規模感が大事。

猪狩委員：

- ・ 拠点病院について、市川市・船橋市には一つは必要である。船橋には135名くらいHIV陽性患者がいるが、2名しか船橋市内の病院に通院できてない。拠点病院がないと、その地域の診療・教育・啓発等の対策が遅れる。
- ・ 当院では半分以上は50歳以上の患者であり、生活習慣病の治療も考えると地元で完結する診療体制が必要である。いまの状況では後手後手になってしまう。
- ・ また、東京ベイ浦安の担当医が不在になっているため、順天堂大学病院医一極集中になっているのも問題である。

事務局：

- ・ 関係機関との調整を図っていく。

西牟田委員：

- ・ 検査体制がコロナでかなり制約されたが、5類に移行して、回復の兆しはあるか。

事務局：

- ・ まだ移行後1年経過してないので、評価が厳しい。

西牟田委員：

- ・ おそらく検査体制は強化していると思う。Webや印刷の広告などもしているのので、その成果が出ることを期待している。

### (3) 千葉県の子感染症の現状と対策

資料2により事務局から説明

質疑

猪狩委員：

- ・ 直接的な効果には結びにくいですが、教育啓発活動は必要である。学校関係も含めて、若い人に対して検討してもらいたい。
- ・ 他にも梅毒については、昔は泌尿器科、皮膚科が担当診療科と認識していたが、現在では経験がないから診療できないというところが増えている。その結果、感染症科、感染症内科での診療が多くなってきている。一極集中されると困るので、医師会の会員の施設でも診療できるように体制整備を願いたい。

西牟田委員：

- ・ 実際、泌尿器科や婦人科、皮膚科での検査が出来ず、感染症の専門医療機関に送られてくるケースは確かにある。きちっとみられる体制を整えることが必要である。

馳委員：

- ・ 梅毒の増加を実感している。診断のついた患者の治療として紹介していただくことがある。泌尿器科や産婦人科の先生に診療の内容に関して、詳しく知って頂く機会を作ることも大事。
- ・ もう一つ、そもそも診断がついてない人が、どの診療科を受診するかわからない。若年化しており、小児科を受診したケースもある。皮疹から小児科を受診し、気づかれずに数年後に判明したケースもある。最初に受診する診療科がわからない。プライマリ・ケアの先生を受診するケースもある。診療科にかかわらず、広く梅毒の診断のところについて、知ってもらえる機会をつくれれば、早期発見につながる。

西牟田委員：

- ・ 学会等の見解では、若年女性の性行動が変わってしまった。ネットの社会で、マッチ

ングアプリで出会った人との安易な性行為をする。その原因として、若年層の経済的な貧困等の社会的問題が背景にありそうである。若年女性の教育啓発が大事である。どうやって社会全体で進めるかが課題となっている。性教育は中学生くらいから実施しているのか？

大木委員：

- ・ 小学校4年生から保健の分野で2次性徴について、性情報は中学校1年生、中学校3年生で性感染症について教育している。教科書上は、中学校では避妊を扱わない。高校生になってから扱うが、実際には産婦人科の先生などを招いて教育してもらったりしている。また、コンドーム等について Youtube などを紹介してもらっている。
- ・ 梅毒やHIVについて話しているが、中学生だとまだ遠くて話があっても、ああそうなのかで済んでしまう。

西牟田委員：

- ・ 教育啓発が重要で検査に結び付く。検査を受ける、相談を受けるといったことをいかにできるかがカギである。